

2023年度岩手大学環境目的、目標及び活動計画

IE1-6-1
最終改定日 2023.3.24

| 環境方針等 | EA21要求事項 | 環境目的 | 環境目標 | 活動計画 | 行動の責任部署 | 監視測定責任部署 |
|--------------------|-----------------------------|---|--|---|--------------------|----------|
| I.キャンパス環境の改善 | | サステナブルキャンパスの構築を図る。 | エコアクション21を基本とした環境マネジメントシステムを運用する。 | 1.エコアクション21の大学高等教育機関向けガイドラインを基本として、岩手大学環境マネジメントシステムを構築する。 | EMS推進室 | EMS推進室 |
| II エネルギーの使用 | 二酸化炭素排出量の削減 | CO2排出量を2030年度に2013年度比約50%の削減を図る。 | 2030年CO2削減に向けた実行計画(案) ¹⁾ 及びロードマップを策定する。 | 1. エネルギー別の使用内容を基にCO2削減に向けた方策を検討する。 | 環境影響評価WG | EMS推進室 |
| | | | | 2. キャンパスカーボンニュートラルに向けた取組みについて検討する。 | EMS推進室 | EMS推進室 |
| | | | | 3. 公用車の更新にあたっては可能な限り環境負荷が少ない自動車の選定を行う。削減可能な公用車の削減を行う。 | 財務課・経理課 | EMS推進室 |
| III. 資源の使用 | 用紙使用の削減 | 資源使用の削減を図る。 | 部局別の用紙使用量ベースラインと使用量を比較検証する。 | 1. EMS事務局がユニット別にコピー用紙の購入量を算出し、前年度と比較する。 | EMS推進室 | EMS推進室 |
| | | | | 2. リース複合機の使用状況を確認し、前年度と比較する。 | 全ユニット | EMS推進室 |
| | 3. 部局別の用紙使用量とベースラインを比較検証する。 | | | 環境影響評価WG | EMS推進室 | |
| | 水使用量の削減 | | | 1. 部局別の水道使用量とベースラインを比較検証する。 | 環境影響評価WG | EMS推進室 |
| 2. 雨水利用について検討する。 | | 施設課 環境影響評価WG | EMS推進室 | | | |
| | 化学物質使用量削減 | | 化学薬品の購入量を抑制する。 | 1. 化学薬品の購入者に対して、必要最小量の購入の呼びかけを行う。 | 安全衛生管理室 | EMS推進室 |
| | | | | | | |
| IV. グリーン購入 | | | 環境配慮型製品を優先的に購入する。 | 1. 環境ラベル認定製品や省エネルギー基準適合製品を優先的に購入する。 | 全ユニット | EMS推進室 |
| V. 廃棄物等の排出 | 廃棄物排出量の削減 | 廃棄物排出量の削減を図る。 | リサイクルの推進に向けた取組みを行う。 | 1. ゴミ分別についての周知・分別調査を継続し、結果を推進室会議で報告する。 | EMS学生委員会 EMS推進室 | EMS推進室 |
| | | | | 2. ごみ分別ポスターを周知し、分別の徹底を図る。 | 廃棄物削減WG | EMS推進室 |
| | | | | 3. ゴミ分別を徹底し、リサイクル可能な回収を実施する。 | EMS学生委員会 | EMS推進室 |
| | | | | 4. 不要な物品・什器類・備品の学内リユースに努め長期使用を進める。 | EMS推進室 全ユニット | EMS推進室 |
| VI. 環境教育 環境人材教育 | 環境に関する教育(環境人材の育成) | 大学における環境教育・環境人材育成を推進する。 | 環境教育・研修の推進を図り、全学で「持続可能な共生社会に寄与する環境人材育成」を進める。 | 1. 環境に大きな影響を与える項目や原因について構成員が自覚するための環境教育クイズを実施する。 | 環境教育WG | EMS推進室 |
| | | | | 2. 環境マネジメント学生委員へ岩手大学環境管理実務士に関する周知を行う。 | EMS事務局 | EMS推進室 |
| | 附属学校における環境学習の充実・発展を図る。 | 附属幼稚園では、花や野菜の栽培等を通して、植物が育つ環境について関心をもつ活動を行う。 | 1. 花の栽培や野菜作りで水やりや草取りなどの世話をする。それらを通して、自然の美しさ、豊かさ、不思議さなどに気づいたり、生長する様子に関心をもったり、命の大切さを感じたり、収穫の喜びを味わったりする。 | 附属幼稚園 | 当該ユニット責任者 | |
| | | | 1. 総合的な学習の時間では、自然環境や地球温暖化等の学習を推進していく。例えば、3年「わたしたちの中津川」の単元では、中津川の自然を観察したり、水質調査や街路樹調べを行ったりしながら、環境問題について考える学習を行う。 | 附属小学校 | 当該ユニット責任者 | |
| | | | 2. ボランティア委員会等の活動として、学校周辺や地域の落ち葉拾い、冬季の除雪作業などを行う。 | 附属小学校 | 当該ユニット責任者 | |
| | | | 3. 5年生「林間学校」の学習の中で、自然環境の大切さや、よりよい環境を維持するための取組を知る。6年生理科「私の環境宣言」では、これまでの学びを生かして「環境に及ぼす影響を少なくする取り組み」「環境を守るための取り組み」「地球の活動によって受ける影響を少なくする取り組み」の3点について、新聞にまとめる学習を行う。 | 附属小学校 | 当該ユニット責任者 | |

| 環境方針等 | EA21要求事項 | 環境目的 | 環境目標 | 活動計画 | 行動の責任部署 | 監視測定責任部署 |
|---------------------|---|---|--|---|--------------|-----------|
| VI. 環境教育 環境人材教育 | 環境に関する教育 (環境人材の育成) | 附属学校における環境学習の充実・発展を図る。 | 附属中学校では、環境を守りはくむ心と感受性を育て、環境美化活動、エネルギーの節約等に配慮した生活・行動を実践できるよう指導する | 1. 授業において環境教育を取り入れる。道徳や理科を中心に学び、心を育てる。 | 附属中学校 | 当該ユニット責任者 |
| | | | | 2. 日常での清掃活動の見直し、及び節電・節水を推進する。 | 附属中学校 | 当該ユニット責任者 |
| | | | | 3. 生徒会活動による校地及びその周辺の清掃・環境美化活動。 | 附属中学校 | 当該ユニット責任者 |
| | | | | 4. ボランティア委員会による附属幼稚園等の清掃・環境美化活動。 | 附属中学校 | 当該ユニット責任者 |
| | | 附属特別支援学校では、作業学習等で使用する原材料のリサイクル化を押し進めるとともに、委員会活動や生徒会活動における資源回収を通して環境活動を実施する。 | 1. 廃油を活用した「リサイクル石けん」や地域のりんご園等から提供された材料を使った「クラフト製品」は、中学部の作業学習で取り組む。 | 附属特別支援学校 | 当該ユニット責任者 | |
| | | | 2. 空き缶、古新聞等の「資源回収」は全校に呼びかけ、中学部の委員会活動で取り組む。 | 附属特別支援学校 | 当該ユニット責任者 | |
| | 3. 高等部エコ委員会から環境整備委員会に名称変更し、エコ委員会で行っていたペットボトルキャップの回収作業に加え、校内及び敷地内の学校環境整備に目を向けた活動に取り組む。具体的には、節電等のポスター制作、落ち葉掃き、除雪等を予定している。 | 附属特別支援学校 | 当該ユニット責任者 | | | |
| 学生の自主的な環境保全活動を推進する。 | EMS学生委員会で環境活動を積極的に実施する。 | 1. 地域社会と連携し、「いわてリサイクルクリエーションプロジェクト」を実施する。 | EMS学生委員会 | EMS推進室 | | |
| VII. 環境関連研究 | 研究及び地域や社会への還元 | 大学・大学院における環境関連研究を推進する。 | 各学部・研究科の特色を活かした環境関連研究を推進する。 | 1. 高齢被災者グループと岩手県内外のNPO法人の連携・協働による太陽光パネル市民共同発電所の運営と岩手県内中小企業（団体）のエネルギーシフト・ウェンテ（大転換）運動による持続可能な地域社会の形成モデルを示す。 | 人文社会科学部 | EMS推進室 |
| | | | | 2. 学部・研究科における環境関連研究を推進する。 | 教育学部 | EMS推進室 |
| | | | | 3. ソフトバスター工学総合研究センター及び学部・研究科における環境関連研究を推進する。 | 理工学部 | EMS推進室 |
| | | | | 4. 農学部における環境関連研究を推進する。 | 農学部 | EMS推進室 |
| VIII. 構内事業者の取組 | | 構内事業者の環境配慮活動の推進を図る。 | 放送大学岩手学習センターにおいて環境に配慮した取組を実施する。 | 1. 放送大学学生に環境保全活動の啓発を推進する。 | 放送大学岩手学習センター | 当該ユニット責任者 |
| | | | プラスチックごみの削減に努める。 | 1. 弁当・リパック容器の回収率を2022年度比2%向上させる。 | 岩手大学生協 | 当該ユニット責任者 |
| IX. 地域社会に対する取組 | 社会貢献 | 三陸沿岸地域の環境産業の振興を図る。 | 持続可能な漁業に向けた取組を行う。 | 1. これまで調査した海洋プラスチックごみに関する知見を活かし、イベントを実施する。 | 釜石キャンパス | EMS推進室 |
| X. 法規制順守 | | 環境に関わる法規制を遵守する。 | 環境関連法規制の制定変更について確認する。 | 1. 法規制評価WGが環境関連法規制に関する状況を確認する。 | 法規制WG | EMS推進室 |

1) 岩手大学がその事務及び事業に関し温室効果ガスの排出の削減等のため実行すべき措置について定める計画